

福岡市議会議員 大原やすお

絆通信号外NO.3

議会と首長の関係は・・・

みなさんは、どのような関係がいいと思いますか！？

31年度の予算を審議する3月議会におきまして、ロープウェー検討費5千万円を削除する自民党の修正案が賛成多数で可決されました。

このロープウェー構想は昨年の市長選挙で「私の夢」と市長が表明し、公約として掲げていたものですが「市民への理解が進まなかった」として「白紙撤回」を表明しました。撤回の理由にロープウェーが市議選の争点になると「市長と親密な議員が不利になるのでは」と懸念しての判断だとも目されています。

これまで市長選挙では、自民党市議団は市長を支持してまいりましたが、支持することと議会に提出された議案すべてに賛成することとは別のものです。市長も議員も市民が選んだ代表です。二元代表制の地方議会では、議会は首長が提出した議案に対してチェック機能を働かせ 是々非々で議論をしていくのが議員としての務めではないかと思っています。

みなさんは、どのようにお考えですか？

ロープウェー「白紙撤回」

高島・福岡市長市議選争点化を回避



ロープウェー構想を白紙撤回すると発表
した福岡市の高島宗一郎市長

博多港とJR博多駅を結ぶロープウェー構想について、福岡市議会は13日の本会議で、平成31年度当初予算案から検討費5千万円を削除し、予備費に回す修正案を、自民党市議団などの賛成多数で可決した。高島宗一郎市長は審議のやり直しを求める「再議」は申し立てず、構想を白紙撤回する考えを示した。

「新しいチャレンジは早いほうが良い。同時に、実現が厳しいとなれば、素早く退くことも、リーダーの資質だ」。高島氏は周辺にこう語っていた。

決断の理由に、ロープウェーの是非を4月の市議選の争点にはさせない、との考えがあった。

昨年の市長選で高島氏

は、市議の力に頼らず、過去最多となる28万5435票を獲得した。市民の支持を背景に、福岡市のさらなる成長へ、数々の施策を打とうとしている。ロープウェーは、「夢」ではあるが、ピースの一つに過ぎない。市議選の争点となれば、思わぬ格好で足をすくわれるかもしれない。また、市民生活を支える予算案の成立が遅れることは、回避すべきだと考えた。

本会議後、高島氏は報道陣に「可決は残念だ。ただ、ロープウェーについてはビジョンが共有できないと分かった以上、もう議論はしない」と述べた。

今回、矛を収めた高島氏だが、市議選では新人3人ら、自身に近い候補を支援する。

対立を繰り返す自民党市議団の勢力を削り、「本当の意味での市長与党」（高島氏周辺）を増やし、議会の基盤を強める考えだ。

高島氏はこの日、今後の市政運営について「思いを共有できるチャレンジジャーと一緒に、市政を進められれば良い」と語った。隣には予算削除の修正案に反対した公明党、みらい・無所属の会、自民党新福岡の3会派の代表がいた。

福岡市議選は3月29日告示、4月7日に投票要される。定数62に対し、90人余りが立候補に向けて動いている。（中村雅和）

(2019.3.14 産経新聞)

今回、矛を収めた高島氏だが、市議選では新人3人ら、自身に近い候補を支援する。

対立を繰り返す自民党市議団の勢力を削り、「本当の意味での市長与党」（高島氏周辺）を増やし、議会の基盤を強める考えだ。

高島氏はこの日、今後の市政運営について「思いを共有できるチャレンジジャーと一緒に、市政を進められれば良い」と語った。隣には予算削除の修正案に反対した公明党、みらい・無所属の会、自民党新福岡の3会派の代表がいた。

福岡市議選は3月29日告示、4月7日に投票要される。定数62に対し、90人余りが立候補に向けて動いている。（中村雅和）

議会と首長の関係

都市圏総局 前田 隆夫



自治体の議会と首長は「車の両輪」に例えられる。確かに地域を引っ張る存在だが、車軸でつながった両輪はいつも同じ方向に、同じスピードで進む。議会と首長の関係はそうではないだろう。

議会は首長が編成、執行する予算を点検し、改めるべき点は改める。不足があれば補う。あらぬ方へ向かえばブレーキをかける。是々非々であるはずだが、現状はどうか。首長が提出した議案は100%近い高率で、原案通りに可決される。「与党」を名乗る議員や会派は根回しを潤滑油にして、首長と仲良しこよし。元鳥取県知事の片山善博、早稲田大教授は、この近すぎる関係を「一輪車」と批判する。両者の間には異論を挟む余地がない。

話題の東京都議選にも一輪車の懸念がある。小池百合子知事が代表を務める地域政党「都民ファーストの会」の幹部は言う。「選挙の争点は小池都政にイエスカノーか」。知事のイエスマンが多数を占める議会に、都政のチェック機能が働くだろうか。

福岡市議会にも「市長を支える」と宣言して結成された会派がある。高島宗一郎市長

議案の修正や否決は当たり前

は自分の方針に反対した最大会派に「野党になるといふことなのか」と発言し、不満をあらわにした。こんな考えを持つ議員と市長に、是々非々の議論ができるだろうか。

「でもね…」と九州のある市議はぼやく。「市長を批判すると、幹部職員にまで反市長のレッテルを貼られ、情報ももらえなくなるんです」

間違った両輪、おかしな一輪車をなくすには、原理原則に立ち返るしかない。

片山氏は知事に就任して初めての議会(1999年5月)で、議員に異例のメッセージを送った。鳥取県議会はこの後、知事提出議案の修正や否決が珍しくなくなる。

「私が議会にお諮りする案件について、県民の意思が他のところにあるとすれば、修正を加えていただきたい。お諮りしない案件についても、県民の意向を踏まえて必要があれば、議員の発議により、条例の制定などに取り組んでいただくことを望みます。遠慮は無用ですし、そもそも、これがわが国の地方自治制度が想定している議会本来の姿でございます」(要約)

議決の判断基準は住民。首長に近いかどうかではない。

「議会は独裁防ぐとりで

福岡市議会特別委

金井東大教授が参考人意見

福岡市議会の議会改革調査特別委員会が1日開かれ、懸案となっている「議会基本条例」をテーマに参考人の金井利之・東京大教授(自治体行政学)から意見を聞いた。

金井教授は、大統領と同じく直接選挙で選ばれる自治体首長は「民意」を背景に独裁的な存在になりやすい本質を持っており、近年はその傾向が強まってきていると述べた。

その上で「議会は、独裁の危険に対抗する『大きなとりで』になる。首長の独走を抑えることを基本線とし、議会基本条例も含めて議論してほしい」「議会をいつでも機動的に開き、首長と執行部を出席させて質問できるようにすることが最も大事だ」と話した。

特別委は来年1月15日、法政大の広瀬克哉教授(行政学)からもヒアリングする。

議会基本条例は、議会の責務を明確にしたり、透明性を高めたりする規定を自主的に定めるもので、全国20政令市では福岡市や熊本市など4市が制定していない。(小野浩志)